

特別講演会「持続可能な登山環境のために」 2026年2月12日 関川村村民会館

検索ワード：特別講演会-2025年2月12日

【特定非営利活動法人環白山保護利用管理協会 理事長曾我隆行氏】

感想：維持管理の課題とやり方が分かった

- ・ 殆どの収入は受託事業
- ・ 人件費はパート扱いで10～20万円/月、年収200万円弱
- ・ 広域であるが直接会って意思疎通を図ることが重要
- ・ いまの時代は地域の人に登山道維持を任せることは無理がある→業者に発注しても山に入れない
- ・ 避難小屋の耐用年数は35年だが、更新に予算がつかない現状

【アウトドアライター：高橋庄太郎氏】

感想：外部者から見た誘客の課題

- ・ 大山脈の魅力→登山道が長距離で繋がっており数日を掛けて楽しむ
- ・ 湧水が豊かな山、日本海側のブナ林
- ・ これから進む山稜、振り返ると辿ってきた山稜→緩やかで樹木がないササが広がっている景観
- ・ 全国的な登山者の感覚では「避難小屋＝宿泊できない小屋」
- ・ プラスチックのバケツはせっかくの湧水が美味しく感じられない
- ・ 朝日軍道や飯豊のへその緒は売り出すべき物語
- ・ 第二次交通が不便、登山のコスト高になっている
- ・ 絶景を楽しめるテント場
- ・ 山頂の神社の景観が勿体ない
- ・ Tシャツのデザインの提案→大鳥池とタキタロウ・へその緒

【まとめ：井上邦彦】

- ・ クマ問題→足ノ松尾根、御西小屋の水場
- ・ 山小舎の老朽化
- ・ 登山道敷地の借地
- ・ 事後発生時の訴訟問題→登山道のレベルの明確化と整備方針
- ・ 気候変動がもたらす登山道浸食の激化
- ・ それらを解決するための仕組みづくりが必要→協議会の設立